

長雨や集中豪雨による災害

家庭・地域で万全の備えを

これから雨の多い季節を迎えます。長雨や、「ゲリラ豪雨」と呼ばれる集中豪雨は、河川の氾濫や土砂災害を引き起こし、大きな被害をもたらします。気象情報には十分注意し、被害を最小限にするため、日頃からの備えを心掛けましょう。

防災に関する情報を

メールで配信

市では、防災に関する情報を「なりたメール配信サービス」でお知らせしています。登録方法を

配信内容は左下をご覧ください。

また、大雨で警報などが発令された場合、いち早く情報を伝えるため、防災行政無線で、合成音声による自動放送を行っています。

防災行政無線は、気象条件や高層建築物などの周辺環境により、聞き取りにくくなる場合があります。

聞き取りにくくなる場合は、防災行政無線テレホンサービス(☎0120・3883898)や市防災情報のホームページ(<https://service.sugumail.com/narita/member/portals/>)などで確認できます。

土砂災害に注意

崖崩れをはじめとする土砂災害から身を守るには、危険のある場所から離れることが大切です。崖崩れの土砂は、斜面の高さの2倍の距離または5メートル程度まで達するといわれています。

次の現象に気付いたら、速やかに

崖から遠くに離れ、市に情報を提供してください。

土砂災害の前兆

○ 斜面に亀裂ができる

○ 小石が斜面からこぼれ落ちる

○ 斜面から地鳴りが聞こえる

○ 普段澄んでいる湧き水が濁る

○ 斜面から水が吹き出す

県と気象台では、大雨により土砂災害の危険度が高まった際に、土砂災害警戒情報を発表しています。市ではこの情報を基に、危険性の高い地域に避難勧告などを発令します。

崖の近くに住んでいる人はすぐに避難できるよう、非常持ち出し品の準備、市の指定緊急避難場所や一時的に避難できる近くの集会所などの確認をしておきましょう。

家庭で備えを

家庭では、次のような対策を取りましょう。

○ 屋根瓦やブロック塀、外壁などを点検し、雨漏りの恐れのある箇所は修理する

○ 雨どいや側溝を清掃し、詰まらないようにする

○ 浸水が多い場所には土のう、地盤の弱い斜面にはブルーシートなどを事前に購入し、雨が強まる前に設置する

市では、土のう・土のう袋・ブルーシートなどの配布は行っていません。

共助で高める防災力

災害発生直後は、公的機関による緊急対応(公助)には限界があります。自分の身は自分で守る(自

助)という考え方に加え、地域の人同士で互いに協力しながら防災活動に取り組むこと(共助)によって、被害を軽減できます。

地域の人が一体となってまちを守る活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

市内では現在、区・自治会・町内会などを単位として、110団体の自主防災組織が結成され、避難訓練や救出訓練などの防災活動に取り組んでいます。

まだ結成されていない区や自治会では、組織の結成を検討してください。

※くわしくは危機管理課(☎20・1523)へ。

なりたメール配信サービス

登録方法

登録用メールアドレス(info-n@sg-m.jp)に空メールを送信後、返信メールに記載されているURLから登録サイトにアクセス(またはQRコードを読み取ってアクセス)、案内に従って登録してください。

*迷惑メール設定をしている人は事前に、「sg-m.jp」のドメインからの受信と、URL付きメールの受信を許可する設定に変更してください

配信内容(選択できます)

- 防災情報
- 大気に関する情報
- 消防情報
- 防犯・安全情報
- 防災行政無線情報

※登録方法については、祝日を除く月～金曜日の午前9時～午後6時に受託会社バイザー(☎0570-055-783)へ。



大雨によって田んぼが冠水

